

2025 年 7 月 28 日

\ 阪大発スタートアップ、絶好調！ /

Japan-U.S. Innovation Awards で 「アルファフュージョン」と「Thinker」の 2 社が 2025 Innovation Showcase に選出！

❖ 概要

大阪大学発スタートアップであるアルファフュージョン株式会社および株式会社 Thinker が、スタンフォード大学と北カリフォルニア・ジャパンソサエティが共催する「Japan-U.S. Innovation Awards」の 2025 Innovation Showcase 企業に 2 社同時に選出されました。

シリコンバレーと日本をつなぐイノベーションを称える Japan - U.S. Innovation Awards は、毎年夏に実施されるサンフランシスコ・バイエリアで長い歴史をもつ大規模なシンポジウムで、2011 年にスタートしました。Innovation Showcase は、魅力あふれる技術と非常に画期的なビジネスアイデアをもち、全世界に大きな影響力を与える潜在性を秘めた日本発の急成長企業 5 社を選定し、表彰するものです。選ばれた 5 社は 7 月 17 日にスタンフォード大学内で開催された「2025 Japan-U.S. Innovation Awards Symposium」に登壇しました。

Japan-U.S. Innovation Awards について

<https://www.usjinnovate.org/about-jp/about-innovation-awards-japanese/>

「Japan-U.S. Innovation Awards Symposium 2025」に関する詳細

<https://www.usjinnovate.org/2025-japanese/>

【藤尾 慈 共創担当理事のコメント：阪大版産学連携の好事例】

大阪大学では、全国屈指の実績を持つ産学連携を更に発展させ、大企業や中堅企業等の埋もれた先端技術をパッケージ化/社会実装するハブとなり、産業/社会構造を変革する戦略を進めています。今回選出されたスタートアップ 2 社は、その戦略の先駆けとなり、大学と産業界との共同研究や技術連携を発展させることで、新たな価値創造と事業化に挑む大学発スタートアップの好事例です。

アルファフュージョン株式会社ではアスタチン(At-211)創薬の社会実装を担い、難治性進行がんの新規治療薬として、安全で供給しやすく、外来診療によりがん治療を行える「がん治療パラダイムの転換」の実現を目指しています。株式会社 Thinker では「近接覚センサー」をコア技術に、人の指のようにモノをつかむロボットハンドを、今までロボットを使ったことが無い中小企業等の製造ラインに組み込めるようにすることで、ものづくり生産効率向上を通じて、日本の製造業の競争力向上を目指しています。

両社とも大阪大学の卓越した研究から生まれ、社会課題解決を見据えた素晴らしいスタートアップ企業です。今回の受賞は大阪大学の研究とそこから生まれたビジネスが世界に影響を与え、貢献することが認められたものでもあり、今後も全学的に研究を深化させながら、この 2 社に続くスタートアップ企業の創出、育成に力を入れていきます。

各企業概要及び本件にかかるプレスリリースにつきましては、各企業のウェブサイト等をご確認ください。

	アルファフュージョン株式会社	株式会社 Thinker
企業ウェブサイト	https://alpha-fusion.com/	https://www.thinker-robotics.co.jp/
各社プレスリリース	https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000013.000091191.html	https://prtmes.jp/main/html/rd/p/00000053.000106143.html
概要	アルファフュージョン株式会社は、主に大阪大学及び科学技術振興機構（JST）産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム(OPERA QiSS)の成果に基づき設立された、アスタチン(At-211)創薬の社会実装を担うスタートアップです。近年急速に世界的に大きく注目される標的アルファ線核医学治療分野において、日本発のオリジナリティを活かし、アスタチン創薬の可能性を解き放っていきます。世界水準にてパイプラインの研究開発から事業開発まで進めることで新たながん治療の実用化を目指し、この革新的なモダリティをがん治療の基盤へと導いていきます。	株式会社 Thinker は、人とロボットが真に協調できる社会を目指し、次世代技術「近接覚センサー」を武器に、ロボットハンドの民主化に取り組んでいます。人の指のような動きでピッキングできる独自のロボットハンド「Think Hand F」や、それとカメラシステムを組み合わせ、多彩かつ柔軟なピッキングを実現した次世代型ロボット「Thinker Model A」で製造現場の省人化・効率化を促進するソリューションを提供しています。
関連参考記事	アスタチンの大量生産でアルファ線核医学治療の早期社会実装へ！核物理研究センターTAT サイクロトロン棟が竣工 https://www.osaka-u.ac.jp/ja/news/topics/2024/02/29002 (2024年2月29日 大阪大学公式HP)	「そっと掴む」をロボットに。少数派センサーの実用化で世界が変わる [基礎工学研究科 助教 小山佳祐] https://resou.osaka-u.ac.jp/ja/story/2023/nl89_startup (2023年9月発行『大阪大学 NewsLetter 89号』に掲載)

❖ 本学におけるスタートアップ創出支援

本学では、100%出資子会社である大阪大学ベンチャーキャピタル株式会社(OUVC)に加え、30社以上の連携ベンチャーキャピタルとともにスタートアップの創出支援や資金調達の支援に取り組んでいます。また、学内プレ・インキュベーションとして、GAP ファンド(社会実装支援 Grant、文部科学省の事業である関西スタートアップアカデミア・コアリションによる KSAC-GAP ファンドプログラム、りそな銀行との連携による阪大専用 GAP ファンド)を実施し、有望研究シーズの発掘を支援しています。

大阪大学発ベンチャー企業数は、2016 年度 117 社から 2023 年度には約 2.25 倍の 263 社に増加しました。特に、経済産業省「2023 年度大学発ベンチャー実態等調査」では、前年度からの大学発ベンチャー増加数第 1 位となる実績を誇ります。